

#### (4) 日中の温度を蓄熱し、夜間の保温を高めるための点検

目標：日中施設内に入ってきた太陽光エネルギーをできるだけ、土壤に蓄え、この放熱により夜間の暖房費の節減を図る。

##### ア. 被覆フィルムの透光性の点検

- ① 採光性を高めるため、被覆資材に汚れ等が着いていないか確認する。

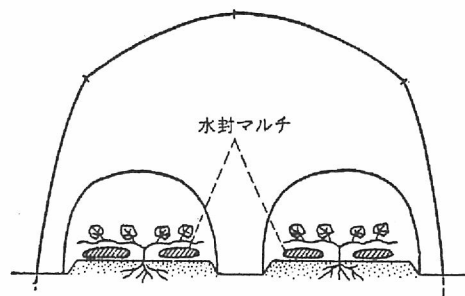
\* 被覆フィルムは洗浄、拭取りの作業で傷がついて、逆に採光性が悪くなることもあるので注意する。汚れの観点からは、農ビよりも農P0のほうが優れる。降灰地帯等汚れのひどい地域では防塵農ビを選択する。

##### イ. マルチの利用

- ① 日中の地温を確保するため透明マルチを利用する。  
② 水封マルチ（水枕）の利用。

畦の上に、水封マルチ（折径 30cm 内外のポリエチレンチューブに水を充てんするもの）をおき、日中暖まった水温によって夜間ハウス内に放熱させ、保温性が高まることを利用する。

水封マルチの利用法



図III-1-10 水封マルチの設置方法【引用文献 27) より転写】

#### ウ. 栽培管理の点検

- ① 採光性に配慮し、栽植様式を決定する。
- ② 整枝、摘葉等の管理を適切おこない、採光性を維持する。
- ③ 夕方早めに換気を終了し、室内の昇温を図る。
- ④ 灌水による地温の低下を夕方まで持ち越すことをさけるため、灌水時間・天候に気をつける。また、ため水を利用する。
- ⑤ カーテンを開閉する時間に注意する。